

Shimotsuke English Journal (SEJ)

Vol. 69



R3.8.19

今月のキーワード

「聞くこと」における「思考・判断・表現」の評価

夏休みが明けると、いよいよ学期末、前期の学習状況を評価する時期となります。これまで、主に「話すこと」における「思考・判断・表現」の評価の在り方などについて掲載してきました（Vol.61・64・66）が、学校訪問などの折に、「聞くこと」に関する評価についてもご質問をいただきました。

「聞くこと」において、コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、どのように思考力や判断力を働かせているかは見えにくいものです。今回は「聞くこと」に焦点を絞り、評価について考えてみたいと思います。

「聞くこと」における「思考・判断・表現」の評価



「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料（小学校）において「思考・判断・表現」のポイントは次のように示されています。（下線は追加）

「聞くこと」は、コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、自分のことや身近で簡単な事柄についての簡単な語句や基本的な表現、日常生活に関する身近で簡単な事柄についての具体的な情報を聞き取ったり、日常生活に関する身近で簡単な事柄についての短い話の概要を捉えたりしている状況を評価する。

具体的に、どのような場面で「思考・判断・表現」を評価できるのか、評価場面を考えてみましょう。

例：5年生 Lesson 2 When is your birthday? (○時間目)



<評価場面>

ALTのアン先生に、誕生日や誕生日に欲しいもの、好きな食べ物などについて担任の先生が尋ねている会話を聞く。その後、アン先生が喜ぶ誕生日カードを作るという目的に応じて必要な情報を聞き取っているかどうかをワークシートで確認する。

会話例

- A: Hello, Ann. When is your birthday? B: Hi. My birthday is July 5th.
A: Oh, it's next week. What do you want for your birthday? B: I want an umbrella.
A: What color do you like? B: I like blue.
A: Oh, I like blue and yellow. Do you like yellow? B: No. I don't like yellow.
A: OK. What sport do you like? B: I like swimming. How about you?
A: I like baseball, but I like swimming, too. What food do you like?
B: I like donuts. I want donuts for my birthday.



参考資料：「小学校外国語教育の指導と評価」（文部科学省 直山木綿子視学官監修）

<ワークシート例>

○アン先生に喜んでもらえるような誕生日カードのアイデアを書きましょう。

子どもの記入例:青色のカードを使う。青色の傘を描く。
ドーナツの絵をたくさん描く。泳いでいる絵を描く。
誕生日の日付を書く。(7月5日)

聞き取るべき項目
を予め示していま
せんね。



「誕生日」「欲しいもの」「好きなスポーツ」のように、話題となっている項目が示されていないので、「誕生日カードを作る」目的を達成するために必要だと思ったことを書き留めるために、必要な情報は何かを考えて聞き取ることになります。(=「思考・判断・表現」の評価)



○評価 おおむね満足できる状況 (b)

相手が喜ぶ誕生日カードを作るために、誕生日などについての短い話を聞いて、具体的な情報を聞き取っている。

※十分満足できる状況 (a) は、児童の実態に応じて設定する必要がありますが、例えば「内容を整理しながら」などの文言を付加することも考えられます。

中学校の定期テスト等では、「必要な情報を聞き取ることができているか」を確かめるために、4択形式での出題方法も考えられます。しかし、この場合も、「聞き取る目的」を示す必要があります。偶然正解となる確率もあるため、学習状況を100%正確に把握できるとは言えませんが、人数が多く個別指導が難しい場面においては妥当性や信頼性の高い問題として考えることができます。



通知票の役割を再確認しよう



通知票は、「保護者に子どもの学校における生活や学習状況を知らせるためのもの」であるとともに、「子どもに、子ども自身の学校の生活や学習状況を知らせ、自己肯定感を高め、今後の生活や学習に前向きに取り組んでいくことができるよう励ますためのもの」です。後期にはなりますが、小学校3、4年生の外国語活動の所見では「どのような力が身に付いたかを文章で端的に記入する」こととなります(「端的に」とは「遠回しでなく明確に」「正しく要点を絞って」などと解釈できます)。今後の学習への意欲付けへと繋がるよう、子どもの成長の状況について事実に基づいた(根拠ある)評価が行えているかどうか、再確認をお願いします。

文責 学校教育課 稲葉亜希恵

